

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	有限会社 劇団プーク
公演団体名	人形劇団プーク

内容
<p>本公演で共演する児童・生徒に事前指導を行う。 シンプルで舞台効果の出る人形「キット」を用意し、事前に郵送。ワークショップ当日は劇団員が人形の作り方から操作法、演じ方、舞台表現のアドバイス等を指導する。 また、本公演に使用する音源や楽譜も事前に送り、聴き感することにより、創作意欲や舞台への興味関心、表現することへの積極性が高まるよう進める。 身近な素材を使い、的確な道具を用い、効果的で丁寧な手順を踏むことにより、魅力ある動きができる“演じるための人形”を自身で創作できることの発見、喜びを大いに感じてもらえるよう、的確な指導助言に努める。</p> <p>【コロナ対策版】として 講師のマスク着用、手指消毒、可能な限り密を避けるなどを徹底する。 共演を避けたい実施校に対しては、人形作成を中心に行う。 必要に応じて 抗原検査等を行う。</p>

タイムスケジュール（標準）
予定時間；二時限分 一時限目//参加児童に 劇団員が人形つくりを指導する。場所/教室及び図工室等 二時限目//作った人形を遣って本公演で使用する楽曲に合わせ、人形操作・演じ方を学びます。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
3名/一校

学校における事前指導
教材（人形の材料を参加人数分）、作り方の手順表、使用する楽曲のCDをワークショップの前にお送りします。 人形の製作に使う道具（はさみやクレヨン）等は各自でご用意ください。 低学年および参加人数の希望が多い学校には、手順表に沿って、途中までの作業をお願いする場合があります。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	有限会社 劇団プーク
公演団体名	人形劇団プーク

演目

『てぶくろを買いに』

原作／新美南吉 脚色・演出／柴崎喜彦 美術／入澤祥子 音楽／庄子智一
照明／阿部千賀子 効果／吉川安志

『くるみ割り人形』

構成・演出プラン／川尻泰司・長谷詔夫 演出／大橋友子 美術／若林由美子
編曲／宮崎尚志 照明／阿部千賀子

【コロナ対策版】として、上演の際、必要に応じて演者は マウスシールド等を装着する。また、抗原検査等も適宜行う。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出演者 : 5 名

スタッフ : 2 名

合計 : 7 名

タイムスケジュール (標準)

例) 仕込み 8:30 リハーサル 11:30~12:15 開場 13:15

開演「くるみ割り人形」13:30~13:55 休憩 13:55~14:10

「てぶくろを買いに」14:10~14:55 ミニワークショップ 14:55~15:10

撤収~16:10 退校

実施校への協力依頼人員

特に ございません。

演目解説

若くして亡くなった新美南吉の『てぶくろを買いに』は、今でも子どもからおとなまで、多くの人に愛され続けている作品です。ブークでは1998年に初演し、好評をいただいています。

きつねの坊やは、はじめて見た雪と夢中で遊ぶうち、その小さな手がこごえてしまいます。かあさんぎつねは、ふもとの町で温かいてぶくろを買ってあげたいと思いました。けれどそこには、きつねを狙う人間が住んでいます…。

雪はあたたかいといわれることがあります。そう、子ぎつねが本当にふれた「雪」は冷たいだけだったのでしょうか。「雪」と遊ぶため、もっと出会うため、子ぎつねは生きる場所の違う人間の住む町へと出かけます。そこで子ぎつねが経験すること、それはお芝居を観ている子どもたちにとって冒険、自立、つながりやきずな、共存、思いやり…。さまざまな事を強く感じ取ってくれることでしょうか。心の交流が希薄と感じられる現代だからこそ、古き良き人の情愛の大切さ、家族のつながり、生命の交流や共存…この作品に流れるメッセージを伝えたいと感じています。子ぎつねがてぶくろをはめて出会うであろう、あたたかな「雪」に思いをはせ、忘れてはいけないものを届けたいと思います。

同時上演は、人形音楽バラエティ「くるみ割り人形」です。美しいメロディーにのって、人形たちが踊り出す。音楽は、誰もが知らず知らず耳にしているでしょう、チャイコフスキーのバレエ音楽です。彼のバレエ音楽の中でも最も洗練され、独創性に富んだ傑作といわれる「くるみ割り人形」を素材に、美しい旋律、楽しい楽曲にのせてさまざまな形式の人形たちが登場します。糸あやつり、棒づかい、からくり、抱えづかい、手づかい…世界中の人形劇を訪ね歩き、人形劇の楽しさをいっぱい詰めました。人形劇と音楽の楽しさを同時に、存分に味わってほしいという願いがこめられた作品です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本公演で上演する劇中に、児童・生徒が演目にちなんだ人形をつかって舞台に登場し、劇団の人形・俳優と共演する場面を設ける。

共演する児童・生徒には各々がつかう人形を自ら創作し、人形操作・演技方・表現・発声について学び、体験してもらう。

舞台の成り立ちについても興味関心を抱けるよう、さまざまな角度（演出・脚本・美術・音楽・照明等）から伝える。

本公演当日まで、学校全体で創造的に楽しく取り組めるよう計画する。

当日リハーサルは、共演する児童・生徒が不安なく上演活動に取り組めるよう、細やかにを行う。

学友・劇団員と共に取り組む事により、共に創り上げる喜びや仲間への信頼、一体感を体験してもらう。

児童生徒とのふれあい

舞台鑑賞後、希望に応じてミニワークショップを行う。芝居に登場した人形や装置の使い方、素材の説明、演じる工夫点などを解説し、さらなる理解や表現への興味関心を深めることに努める。